

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（12月定例会）
開催日時	令和6年12月20日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：伊尻委員、小野委員、樫出委員、川原議長、河野委員、坂内委員 澤井委員、高橋委員、谷関委員、長谷川委員、松本委員、米村委員 事務局：大内社会教育課長、吉野社会教育係長、野田主事
議題	（1）スケジュールの確認 （2）提言の項目ごとの内容の検討
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1）スケジュールの確認

○議長：このことについて事務局から説明をお願いしたい。

○事務局：議題1 スケジュールの確認について、項目ごとの内容の検討は11月・12月定例会で行い、1月定例会からは執筆いただいた原案の確認に入る。資料配布の都合上、作成いただいた原案を事前に事務局へ提出いただきたく、提出期限を設定したので、ご協力をお願いしたい。

○議長：質問や意見等はあるか。

一同質問や意見等なし

議題（2）提言の項目ごとの内容の検討

○議長：このことについて事務局から説明をお願いしたい。

○委員：前回の定例会では第2章社会教育で学ぶ多様な人々（1）学ぶ人までご意見を頂いた。今回の定例会では（2）支える人、第3章社会教育におけるネットワークづくり、まとめについてご意見を頂きたい。12月定例会の資料送付の際にも、依頼させていただいたので、事前に検討いただいた内容も併せてご意見いただきたい。

○議長：第2章社会教育で学ぶ多様な人々（2）支える人について質問や意見等はあるか。

○委員：社会教育士について、資格取得には何が必要なのか、取得後の活躍モデル、活躍するため

のネットワークづくりについて提言に入れていきたい。

○委員：公民館専門員の任用については社会教育主事となる資格を有する者、社会教育士の資格を有する者、学校の教員の資格を有する者等の条件があるが、社会教育主事となる資格や社会教育士の資格を取得された方として任用された専門員は多くないと聞いたことがある。

○議長：任用の条件として社会教育主事となる資格、社会教育士資格の記載がされていることが強みでもあると考えるので、その点についても提言に入れていきたい。

○委員：社会教育士については、制度自体が新しいために、役割がまだ知られていない。活躍事例等を示していきたい。また、新たな時代における社会教育士の活躍の仕方を皆で考えたい。

行政関係職員について、関係部署との横断的連携、社会教育に関する職員研修の実施、庁内の配置転換を活発に実施することで、市職員における社会教育に関する理解が深められると考える。

○委員：社会教育士の資格については、「資格を持っていればなおよい。」という印象である。地域で活躍されている方が必ずしも資格が必要かと考えると、資格を持っていない方も十分に活躍している。

資格取得者が仕事として活用するためにはどのような仕事があるかを考えたい。社会教育士は地域においてボランティアとして活躍していることが多い。

○委員：地域活動への入り方が分からないという悩みを持つ方が多い印象である。

○委員：地域の活動は様々あるが、西東京市内で活躍されている団体等も示していきたい。

○委員：活動主体同士の横のつながりが生まれるといい。繋げる役割を社会教育士が担ってくれるといいと考える。

○委員：活動主体の強みが生かせる活動の仕方ができればよいので、活動主体同士の連携の必要性が生じていない場合もある。

○委員：公民館関係では、研修を通してあらゆる世代に参加してもらうための工夫など、公民館専門員の努力を知ることができた。持続的に公民館サービスを提供するために専門員の個人の力量に頼らないシステムの創出が鍵になると考える。

○委員：公民館で働きたいと思う若者が、西東京市の制度を知ると諦めてしまう。社会教育や生涯学習を学んだ学生が希望を持って働けるような仕組みを提言していきたい。

- 委員：個人の力量に偏らないシステムということで、コーディネーターの力量についても同様に言えると思う。個人の力量の差を埋めるための取り組みも考えていきたい。
- 議長：第3章社会教育におけるネットワークづくり、まとめについて質問や意見等はあるか。
- 委員：広報について、公民館では様々なチラシが配架されているが、公民館に行かないと情報を受け取れないが、公民館だよりは全戸配布なので、手に取りやすい。ただ、読まれていない方もいるので、広報の活用方法についても考えたい。
- 議長：電子版の公民館だよりの活用方法についても考えていきたい。
- 委員：各公民館がホームページを持つことやSNSの活用など、オンラインでの情報発信について考えていくことが、これからに向けた提言になるのではないかと。
地域の団体やNPO法人など、様々な活動主体があらゆるところで場づくりをしており、場が多様化している。多様化した場をどのように知ってもらうかが1つのテーマになると考える。多様化された場を統括できるような方法についても考えていきたい。
- 議長：多様化した場について、次回定例会で意見を出していただきたい。
- 委員：学校施設を地域へ開放する動きがある。学校施設を利用した団体の専門知識に生徒が触れるなど、生徒も地域から学ぶ機会となっている。
- 委員：「場」というテーマをもう少し読みやすいテーマに変更したい。
- 議長：「人々がつながる場」としてはいかがか。執筆担当者に一任できればと考える。

一同同意

- 委員：「社会教育は外に出ていく」について、公民館の防災講座を児童館で実施したことがある。子供向け防災講座を公民館で実施しても子供が集まらないので、児童館のような子供が集う場所で実施することで、多くの子供たちの参加があった。
- 委員：図書館の読み聞かせを児童館で実施した事例もある。子供がいる場所が学ぶ場となった。
- 議長：次回定例会では各担当より執筆された原案の確認に入りたい。

次回会議

日時 令和7年1月24日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 5階会議室